

ラ フォレ セ ラ ヴィ —森こそ命—



La Forêt, C'est la Vie !



ブルキナファソファソの民間育苗所 《出典：社団法人 国際農林業協働協会（JAICAF）》

7月の中旬から末にかけて、（社）国際農林業協働協会が構成する調査団の一員としてブルキナファソに行って来ました（注）。

現地では多くの方々からお話を伺うことができましたが、中でも最も関心を惹かれたのが、首都ワガドゥグの活発な苗木生産状況についてでした。ブルキナファソ全体の苗木生産数は、2006年には800万本でしたが、2011年には1400万本、何とわずか5年間で1.75倍です！ しかもその85%が民間によるものだというのです。業者によると、育苗に携わる住民は既に5,000を越えているとのこと、中には2人の奥さんと14人の子供たちを苗木作りだけで養っている方もいました。

しかも、顧客は政府機関や NGO 等が中心ではなく、ほとんどが一般市民とのこと、住民の緑化意識の高まりに、ただただ驚かされた次第です。

緑のサヘル 事務局長 菅川 拓也

（注）農林水産省の補助事業「途上国の農業等協力に係る現地活動支援のうちアフリカ支援のための農林水産業情報整備事業」による現地調査の一つです。



ブルキナファソの食料事情



穀物を扱う商店は大忙しです。

ブルキナファソでは、昨年の降雨不足によって穀物生産が打撃を受けたため、政府や国際機関によって、早くから今年の食料事情の悪化が予測されていました。とりわけ、例年食料事情の厳しくなる端境期（6月～9月）が、もっとも警戒されていました。

例年 11 月になると穀物は生産時期を迎え、販売価格が下がります。しかし今年は、生産不足を受けて逆に大幅な上昇となってしまいました。

5月26日には、物価高騰に抗議するデモが、各地で一斉に行なわれました。しかし現在もなお価格上昇は続いており、ソルガム（モロコシ）やミレット（トウジンビエ）などのローカルの穀物は、例年の2倍～3倍の値段で売られています。幸いにも、今年の雨季は順調な降雨が続いています。収穫が待ち遠しい限りです。

JICA 草の根技術協力事業

2009年7月から実施していた JICA 草の根技術協力事業は、2012年6月を持って無事完了いたしました。対象となっていた 2 村の住民の熱心な取り組みと現地の団体 AJPEE（環境畜産保全協会）の協力のおかげで、住民の抱えている問題の一端を軽減することが出来ました。

しかし、問題の完全な解決には至らず、住民自身で取り組みを続けていくにはまだ力不足の状況です。「緑のサヘル」としては継続的な支援が必要と判断し、フォローアップ事業の実施を JICA に申請、審査を経て「栽培地の生産性向上と組合活動の強化による生活改善プロジェクト」として承認の運びとなりました。



新しい対象村タンポンガ村の住民との話し合い。

7月から開始された本プロジェクトでは、導入した技術の一層の普及を目指すと共に、住民自身による取り組みを可能にするため、資金面での強化を図ることにしています。また、対象村も1村増え、計3村で行なうこととなります。2014年6月までが事業期間ですが、これまでと同様、住民と AJPEE と協力しながら進めていくつもりです。

ブルキナファソから 2



小学校緑化支援プロジェクト



表彰状を手にしたサントル B 小学校の皆さん。

コングシ地域で校庭の緑化活動を行なっている小学校 19 校を対象に、2011 年の取り組みに対する成績発表会が開かれました。

2011 年は、降雨が不足気味だったにもかかわらず、いずれの小学校でも熱心な取り組みが行なわれました。評価のために視察した教育局や環境局の担当者の方々も、とても感心していました。どの小学校が最優秀でもおかしくなかったのですが、接戦の末、サントル B 小学校が 1 位となりました。

2012 年の植林も既に始められており、同じく 19 校で 760 本の苗木が植えられました。6 年目を迎えるこの活動は、開始当初と比べると目に見える変化をもたらしています。砂の地面がむき出しだった校庭に苗木が成長し、木陰を落とすまでになっています。大きく育った木々は小学校の努力の賜物であり、生徒たちは誇らしい気持ちを持っています。

チャドから



食料危機がやや改善しました

昨年来の食料危機については、チャド政府や人道支援機関が様々な取り組みを行なった結果、少しずつですが改善が見られています。支援では、食料配布などの直接的な対策が実施されているほか、今年の農作業に必要な農具や種子などの配布も行なわれています。この支援は、食料の調達が可能となる 9 月ごろまで継続されることになっています。

加えて、今年の雨季は雨の降り始めが早く、降水量も例年を上回っています。穀物栽培や家畜飼育にとって、大きな恵みと言えます。また、食用となるローカルの植物を利用することが出来るため、現状の食料事情の改善につながっています。

これから雨季は後半を迎え、栽培している穀物が穂を付け始める時期になります。しかし、雨季後半に降雨が不足すると穂に実が入らず、収穫が出来なくなってしまいます。まだまだ気が抜けない状況が続いています。

国内活動



今期は、中学生、高校生、大学生、そして一般の皆さんと、多くの方々にお話する機会に恵まれました。また、新聞や機関誌などからの取材もあり、「緑のサヘル」をより多くの皆さまに知っていただけるよう、広報に努めました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

5月 8日(火)	石川県金沢市立高岡中学校（3年生6名）	講演（菅川）
	チャリティ☆ナイト「タンザニア人大学生の就職・起業活動」	共催
22日(火)	「世界食料デー」ミーティング	出席（菅川）
31日(木)	東京外国語大学 講演&インターン/ボランティア説明会	講演（菅川）
	「国際環境 NGO の活動を知る、働いてみる！」	
6月 3日(日)	砂漠化対処セミナー「西アフリカ内陸半乾燥地での砂漠化対処と生計向上支援のあり方を探る」	講演（菅川）
19日(火)	「世界食料デー」ミーティング	出席（菅川）
26日(火)	朝日小学生新聞より取材	担当（菅川）
7月 3日(火)	湘南学園高等学校（2年生4名）	講演（菅川）
10日(火)	クロスロード（発行：JICA 青年海外協力隊事務局）より取材	担当（岡本）
	チャリティ☆ナイト「アフリカの布をきっかけに広まった人の輪」	共催
24日(火)	「世界食料デー」ミーティング	出席（岡本）
26日(木)	連続公開セミナー「食べ物の危機を考える」第3回	講演（岡本）
	「帰国報告：ブルキナファソの食料不安」	

砂漠化対処セミナー

西アフリカ内陸半乾燥地での砂漠化対処と生計向上支援のあり方を探る

去る6月3日（日）に、JICA 横浜にて「西アフリカ内陸半乾燥地での砂漠化対処と生計向上支援のあり方を探る」（共催：地球・人間環境フォーラム、総合地球環境学研究所、国際開発学会、環境省、JICA、緑のサヘル）というイベントが開催されました。

このイベントでは、西アフリカ内陸の乾燥地に位置するブルキナファソやニジェールに焦点を当て、砂漠化プロセスの一つである風や水による侵食（風食、水食）を抑制し、生計を強化する対処術の開発や普及アプローチについて、NGO、研究者、民間企業という様々の立場から、取り組みや成果が報告されました。「緑のサヘル」からは事務局長の菅川拓也が、現在ブルキナファソ、バム湖周辺の村々において実施中の活動について発表いたしました。

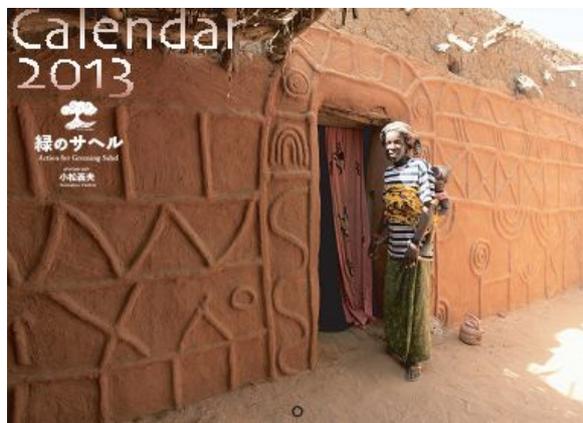


現地の活動を発表する菅川。

発表後の意見交換も活発に行なわれ、互いに異なる立場からの知見・考えを知ることができるイベントとなりました。



カレンダー販売・予約開始！！



おかげさまで毎年大好評の「緑のサヘル オリジナル・カレンダー」が、もうすぐ完成します。今年も、世界各国で人々の暮らしを撮り続ける写真家・小松義夫氏と、旅行人・編集長の蔵前仁一氏にご協力いただきました。

2013年のカレンダーも、西アフリカの風景や生活の色彩がとても眩しく、オレンジやスカイブルーの衣装やマンゴの黄色が、砂の色に映えています。

尚、カレンダーを1冊ご購入いただきますと、苗木10本を植えることができます。また丈夫な金属カマドを1世帯に1つ設置できます。ぜひ同封のチラシでお申込み下さい。

サイズ：A4変形（広げた時A3変形）、印刷：オールカラー28ページ、価格：1部1,000円（税込み）、送料200円（全国一律・何部でも）

「世界食料デー」月間 2012

現在、世界中では9億人以上の人々が飢えに苦しんでいると言われています。食料の生産量が足りていないからでしょうか？ — いいえ、実は毎年、世界の全ての人々が十分に食べられるだけの食料が作られているのです。では、なぜ世界から飢餓がなくなるのでしょうか？

毎年10月16日は「世界食料デー」。国連が制定した世界の食料問題を考える日です。日本でも、より多くの方々に飢餓や食糧問題について知ってもらうために、様々な団体が取り組みを行っています。

2012年のテーマは「みんなで食べる幸せを」。10月は国際機関やNGO/NPOなどが呼びかけ、企業や教育機関と共に様々なイベントを行なう「世界食料デー」月間となっています。



お粥の炊き出しを待つ子供たち。

皆さんも「世界食料デー」月間をきっかけに、私たちに何ができるかを一緒に考えてみませんか？ (<http://www.worldfoodday-japan.net>)

*「緑のサヘル」は「世界食料デー」月間2012の呼びかけ団体の一つです。

スタッフ紹介

スタッフの離任と着任

長年ブルキナファソの現地調整員を勤めて来た木藤絢乃さんが、6月末に「緑のサヘル」を離任いたしました。また、6月初めからは当団体理事の本所稚佳江が、東京事務局スタッフとして加わりました。



ブルキナファソの調整員として、現場や東京事務局の優しく個性的なスタッフや、温かい支援者の皆さま

の応援に支えられて「緑のサヘル」の活動に携わってきました。

スタッフとしては団体を離れますが、現場を大切に、実直に活動している「緑のサヘル」に、これからも何らかの形で関わっていきたいと思います。ありがとうございました。(木藤)



みなさん、お久しぶりです。2004年に国際炭焼き協会会長の杉浦銀治先生と

ブルキナファソへ炭焼き研修に行って以来の現場復帰です。

ブランクにめげず、年齢にめげず、アフリカとの新しい出会いを楽しみにがんばります。これからもよろしくお願いします。(本所)

インターン紹介

8月より、大木里美さん、鈴木怜さん、入江風子さんがインターンとして加わりました。緑のサヘルのインターンとして、多くのことを学んでくれることを期待しています。



こんにちは！東京外国語大学4年の大木里美と申します。8月から来年2月までの半年間、緑のサヘルでインターンをさせて頂くことになりました。大学ではアフリカ地域研究ゼミとインドネシア舞踊部に所属しています。短い期間ではありますが、その分充実させ多くの事を吸収し、半年後、成長した姿をお見せできるよう頑張ります。よろしくお願ひ致します。(大木)

8月から緑のサヘルでインターンをさせて頂いている鈴木怜です。アフリカや国際協力に興味があり、アフリカで活動する日本のNGOを内部から見てみたいと考え、参加を希望しました。6ヶ月という短い間ですが、緑のサヘルの活動に貢献出来たらと思います。よろしくお願ひします。(鈴木)



インターンをさせて頂きます入江です。私事にはなりますが、イタリアという大らかな国での暮らしを経て、家族や友人と笑いながら食事をするこの大切さを感じました。経験豊富なスタッフの話を通じ、今少しずつアフリカが身近になってきています。微力ながらも、国際支援に関わる機会にさせて頂けたらと思っています。(入江)

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 継続会員のみなさま 】

石本雄大／岩永孝子／林裕之／須藤さい／木村恵子／源実恵／柏原竜一
佐藤京子／巨友子／町千恵子／北川華子／玉岡昇治／高松千枝子／菊山ひじり
岡本美智子／豊島正幸／山根二郎／猪股満希子／佐々木仁／田中ちえ子

【 ご寄付を頂きました 】

賀川麻衣／木野下信子／山本明子／田中ちえ子／山田稚佳江
門村浩／大久保久美子／丹邦子／榎本みつ枝／高橋靖明／前田郁子
村上和代／小池昌子／小林伸張／徳永美和子／帯瀬憲五／西川英宣／柏原竜一
松岡亜湖／黒河内康／加藤治郎／武知ハルミ／こじまこどもクリニック／入江成子
富士ウェルテック株式会社／米多喜久男／太田宜子／鈴木潤／木野下章
高橋量平／西村豊子／梅田暢子／山本淑子／川田満／太田弘子

他 匿名をご希望の方 2名

【 ハガキ・切手などを頂きました 】

大久保久美子

上記は 2012 年 5 月 1 日から 2012 年 7 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2012 年 8 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構(JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(社)国土緑化推進機構)／(特活)ハンガー・フリー・ワールド
(株)サティスファクトリー／(財)農村更生協会 ハヶ岳中央農業実践大学校
アフリカ料理 神楽坂ドライブス／(特活)国際協力 NGO センター
(社)日本経済団体連合会／国際連合食糧農業機関(FAO)／(社)国際農林業協働協会
(財)国際緑化推進センター／isave(シーブ株)／(株)グリムス
(特活)環境アリーナ研究機構／アクトシステム株式会社

取材を受けました

❁ 朝日小学生新聞 7月22日(日)「干ばつ続くアフリカ サヘル地域」

画像を提供しました

❁ 札幌市教育委員会 『エネルギー・環境に関する指導資料』
❁ 鳥居薬品株式会社 『鳥居薬品社内報』
❁ 高槻市産業環境部 『たかつき環境家計簿』

おしらせ

住所変更

「緑のサヘル」東京事務局があるビルの名称が、8月26日より変更となりました。下記が新しい住所となります。今後とも、よろしくお願い致します。

(新住所)

〒101-0035
東京都千代田区神田紺屋町16 NASビル3F

グローバルフェスタ出展予定!



今年も10月6日(土)・7日(日)に、日比谷公園にてグローバルフェスタが開催されます。「緑のサヘル」も出展し、現地と活動の紹介、民芸品やカレンダーの販売を行ないます。

是非お誘いあわせの上、お越しください!

詳細はこちら!

HP: <http://www.gfjapan.com/>

【 もくじ 】

- | | |
|---------------|-----------|
| 1..表紙 | 5..事務局より |
| 2..ブルキナファソから1 | 6..スタッフ紹介 |
| 3..ブルキナファソから2 | 7..ありがとう |
| チャドから | 8..お知らせ |
| 4..国内活動 | |

< 編集部より >

- 雨季のブルキナファソは、連日曇り空です。肌寒くて、薄めの毛布で寝ています。(岡本)
- 久しぶりに過ごす日本の夏に、大苦戦しています。(菅川)
- 東京は蒸し暑く、乾燥したブルキナファソが恋しいです。(田村)
- オペラ、ミュージカル、インドネシア舞踊、インターンのみなさんの特技です。かわいい!(本所)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

八ヶ岳農場の特産品

八ヶ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、八ヶ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 北陸 南東北	信越 中部 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス/ ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー/ チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ/ ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie!

Vol. 51

編集 菅川拓也 岡本敏樹 本所稚佳江 田村典子 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 NASビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041